

N E X T

医療機器開発センター

寄付報告書 2025年度

ご寄付いただきありがとうございます。
2025年度NEXT寄付収支をご報告いたします。



NEXT 1年間の活動成果と今後

「第9回メディカルデバイス イノベーション in 柏の葉」開催

革新的医療機器を生み出す企業の誕生を後押しするためにイベントやシンポジウムを企画し、実施しています。「第9回メディカルデバイスイノベーション in 柏の葉」では、スタートアップ企業の取り組みや支援の在り方に関するパネルディスカッションを行い、167名の方にご参加いただきました。



革新的医療機器における 臨床研究の支援を開始

NEXT医療機器開発センターでは、行政や医療機器メーカー経験者、臨床専門家などセンター内外の様々な専門家との連携により、革新的な医療機器に関する臨床研究の実施支援を行っています。世界中の患者さんに恩恵をもたらすため、AIなど先端技術を活用した新たな医療機器の臨床研究を支援して価値を実証し、製品の臨床導入を促進しています。

1年間の活動成果と今後

NEXT医療機器開発センターは2017年の開設以来、高度な医療技術の提供、次世代医療機器や技術の開発、がん医療におけるリーダーの育成等に取り組んで参りました。2025年度も食道がんにおける新たな治療法を提供する医療機器など、当センターでの研究から生まれた複数の製品が臨床応用に至りました。こうした実績は、皆様から頂いたご寄付のおかげであり、心より感謝申し上げます。今後も、皆様のご支援を大切に活かしながら、使命の達成に向けて取り組んでまいります。

寄付収支報告

収入	(円)
入金年度	入金額
前年度繰越	48,265,333
2025年度	7,807,033
合計	56,072,366

次年度繰越 39,184,338



支出	(円)	
使途	費目	支出額
1.最先端の医療技術を提供	(医) データ通信料	154,440
		154,440
2.医療機器や技術の開発	データ通信料	229,122
	その他委託費	7,096,584
	雑費	105,000
	消耗器具備品費、消耗品費	84,150
	(医) コンピュータ運営委託費	2,706,000
		10,220,856
4.医療者の育成	医療消耗器具備品費	3,927,504
	消耗器具備品費、消耗品費	700,889
	その他器械賃借料	1,174,339
		5,802,732
その他	負債振替	710,000
		710,000
2025年度支出合計		16,888,028

1.最先端の医療技術を提供

新コンセプトの手術支援ロボットが医療現場に

大腸外科 伊藤 雅昭

当院と朝日サージカルロボティクス株式会社が共同で開発した腹腔鏡手術支援ロボットが、2023年2月1日に日本で医療機器として承認されました。通常2人の外科医が担う助手とスコピストの作業を、1台のロボットが担うことで合理的な手術環境が整備され、より効率的で、より患者さんの体への負担が少ない手術の提供が期待されます。2023年11月29日に大腸がんに対する第1例目の手術を実施し、2026年3月31日時点で計104例の患者さんで手術を実施し、安全な手術が提供されています。また、ほかの領域の手術にも応用しており、普及が進んでいます。

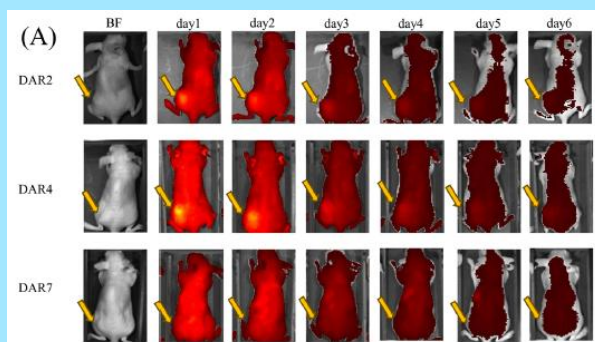


2.医療機器や技術の開発

食道胃接合部腺がんに対する光免疫療法の開発

消化管内視鏡科 矢野 友規

私たちは、がん細胞表面分子を標的とし、近赤外光照射により選択的に細胞死を誘導する光免疫療法に着目し、食道胃接合部腺がんに対する最適な標的分子の探索を行いました。皆様からのご寄付により本研究を推進することができ、手術検体の解析において、上皮細胞接着分子EpCAMが98%の症例で発現し、高い均一性を示すことを明らかにしました。さらに、EpCAM抗体を用いた新規薬剤により、動物モデルにおいて良好な抗腫瘍効果を確認し、これらの成果をCancer Science誌に発表しました。今後は、内視鏡を用いた臨床応用の実現を目指してまいります。



3.新医療を臨床現場に

骨盤/側方リンパ節郭清術をAIで支援

大腸外科 塚田 祐一郎

骨盤/側方リンパ節郭清術は、大腸外科・婦人科・泌尿器科などにおいて、骨盤内の悪性腫瘍に対して行われる重要な手技ですが、高い難易度を伴います。当院と国立がん研究センター発ベンチャー企業とで開発し、2025年12月に薬事承認された内視鏡手術支援プログラム SurVis-Pelは、内視鏡手術中の映像をAIが解析し、本郭清術において重要な解剖構造をモニター上で強調表示することで、術者の解剖構造の認識を支援します。このようなシステムの開発や導入により、医療現場における質と安全性の向上に取り組んでまいります。



4.医療者の育成

最高の練習で最高の手術を目指す

肝胆膵外科 寺田 剛

外科手術は準備で決まると言われます。教科書で学び、優れた手術動画を繰り返し見て、自ら何度も練習を重ねることで技術は磨かれます。私たち若手医師は師匠たちから“Perfect practice makes perfect.”と教わってきました。皆さまからのご寄付により、縫合練習器具や粘膜モデル、腹腔鏡下手術の練習環境まで整備していただき、高度な練習環境のもと、安全で質の高い医療の提供を目指し日々研鑽を積んでいます。

